

季
刊



KIKAN
KADENSHA
vol.08
2017/8/1

演劇プロデューサーの役目

演劇はいつの時代も若者が夢中になれる、信念や主義や生き方のヒントをもらえるものです。日本では西洋演劇から学び、新劇をはじめとして多様で豊かな演劇の世界を拓げてきた歴史があります。70年代のアンガラ劇、80年代の小劇場などいくつかのブームも重なって、現代演劇の形態の幅はかつてないほど広がりを見せています。映像、ミュージカル、2.5次元の要素が加わるものも登場する、多彩な文化。

この世界にたくさんのお客様を引き込み、人生をより深くとらえようとする演劇を体感してほしい。アニメやゲームなどたくさんのエンターテイメントが林立する中で、まだ演劇に親しんでいない多くのお客様にも共感してほしい。そのために演劇プロデューサーという職があって、今の課題は次の3つと考えています。オリジナル新作戯曲をつくること、俳優を育成すること、そしてオーディエンスの活性化。プロデュース公演では出自の違う俳優達が集います。みな違った華があり、心を打つ実もあります。中途半端な芝居は見せない。そうした作り手の姿勢が、演劇を支えています。

渡辺ミキ (演劇プロデューサー)

花伝舎を行き交う人々 その3

[演劇プロデューサー]

渡辺ミキ

劇作家・末満健一さんがライフワークとして掲げる演劇公演TRUMPシリーズ。そのひとつ『グランギニョル』がこの夏開幕します。プロデュースを行ったのはワタナベエンターテインメント。この公演をはじめ、これまで制作されたいくつかの公演の稽古が花伝舎で行われてきました。その代表渡辺ミキさんにお話を伺います。

小学校が宿している真摯で無垢な雰囲気

これまで何度も稽古に使わせてもらっています。この場所は小学校が宿している真摯で無垢な雰囲気があります。稽古を始めよう!という雰囲気を誘うんですね。プロフェッショナルもアマチュアもいろんな団体が利用していますが、向かっている方向性はみんな一緒。真摯に演劇に取り組む姿勢は同じなので、場を共有する人たちの間で、気持ちのよい空気がつくられて、それがピュアなものになっていると感じます。それにここは、気分転換できる空間がたくさんあります。10年前、2007年にワタナベエンターテインメントが演劇制作をスタートさせた第一作公演から度々花伝舎で芝居作りをさせて頂いています。

——稽古中の役者さん、演出家さんにも伺います。この場所をどう感じていらっしゃいますか?

染谷さん:7年前に初めてここを使わせてもらい

ました。そのころはもっと学校っぽかったですね。今回で3、4回目くらいです。ここは都心によくあるスタジオの稽古場っぽくはありません。でも演劇の伝統を感じる。ここに来るといよいよ稽古が始まるぞっていう気分が伝わってきます。

三浦さん:どんどん環境が整って、稽古場として充実してきている気がします。次にリノベーションされるのがまた楽しみです。休憩スペースなども充実して、安心感、温かみがあります。

末満さん:顔見知りのいろんな方々とよくここで会います。演劇人とのつながりを感じる場所です。元小学校だったことがそうさせるのか、稽古



も部活しているみたいな雰囲気がある。そして心理的に閉ざされないのがいいですね。窓が開いて、陽光が入り、緑に癒やされる。気分を切り替えやすい稽古場です。

——あらためて、プロデューサーとして、この稽古をどのようにご覧になっていますか?

末満さんは魅力的なキャラクター構築とスケールの大きな物語が描ける作家。その世界が彼

の頭の中にあるのだけれど、バラバラにユニットとして集められた役者たちが、良い意味で演出を超えるような演技を見せて、それを演出家が消化するような稽古を通じて生まれるものも見てみたいですね。通し稽古が始まるとほぼ毎日ここに来ます。プロデューサーが一番最初の観客ですから。私はその感想を演出家に伝える役回りでもありと思っています。



東京2020公認文化オリンピック認定プログラム
日本遺産の萬福寺松隠堂を特別公開して開催



地域の専門家が、茶摘み歌や古老からの
聞き語りを紹介し、昔のお茶づくりの様子を解説



長唄『越後獅子』の
スピード感あふれる
演奏を間近に
ききいる観衆



茶の湯に関する言葉を連ねて、
男女の仲が長く続くよう
願った曲に合わせてしっとり舞う

東京2020大会に向け、全国各地の文化を巡る特別プログラムスタート!

ニッポンたからものプロジェクト

—日本遺産×Live Art—

日程=7月2日(日) 12:30開演 会場=黄檗山萬福寺 松隠堂

主催=文化庁、芸団協

共催=京都府 特別協力=近畿日本ツーリスト株式会社

協力=共同通信社

「日本遺産」とは、地域固有の文化・歴史のストーリーを伝える取り組みだ。文化庁による認定が全国で進むなか、歴史と伝統を重んじ、現在に継承してきた京都府においても、とある1つのストーリーがかたちづけられている。その名は「日本茶800年の歴史散歩」。煎茶、抹茶などの発祥地である同府の山城地域には、美しい茶畑の景観、お茶にまつわる儀式や祭りが根付いているからだ。

実演芸術を通して日本遺産の魅力を体感的に伝える「ニッポンたからものプロジェクト～日本遺産×Live Art」は、実演芸術そのものの魅力を全国に届ける試みでもある。2017年7月2日の第1回は、宇治市の黄檗山萬福寺が会場に選ばれた。プログラムは、桂吉坊の上方落語『茶の湯』、井上安寿子による京舞『茶音頭』など、お茶に紐づく演目が主に選ばれた。知ったかぶりのご隠居が巻き起こす珍騒動、男女の逢瀬を茶の湯などの所作に当てはめた美しい舞に、会場を埋めた観客は大笑いしたり、うっとりしたり。進行を担当したミュージシャンのマーティ・フリードマンが「コンサートホールにはない距離の近さが楽しい。芸能の背景になっている文化を空間的にも経験できるのは、とても贅沢」と述べたように、特別な時間を全員が共有する体験が生まれた。

宇治市歴史資料館元館長・坂本博司さんによる、お茶と歌の関係に迫るミニ講義を経て、長唄『越後獅子』の賑々しい演奏でイベントは終了。宇治市内の高校生で結成された若々しい記者チームが取材に訪れるなど、幅広い世代にとって有意義な時間となった。

今回は福井県小浜市と富山県高岡市、地域の魅力をいかした公演をお楽しみに。
(スケジュールは、最終ページをご参照ください)

[劇場スタッフの就労環境と意識]

公共劇場スタッフの働き方改革に向けて

～実演家、劇場・舞台スタッフの就労環境改善に関する調査研究～より

芸団協では、2016年度に「実演家、劇場・舞台スタッフの就労環境改善に関する調査研究」を実施。長時間労働が社会問題化し、働き方改革が求められる現今、実演芸術の創造と提供の拠点である「劇場」を対象に、「女性や高齢者が活躍できる就労環境とは」という問題意識から当事者等の意識を探った。

報告書では、劇場の働き方改革にかかる課題を、①長時間労働の常態化、②休暇が取得しにくい、③専門性を持った人の離職、④男性参入者減の4点に整理した。(公財)全国公立文化施設協会による調査*(2015)でも明らかになっている通り、公共劇場での女性の従事者数は既にかなり多い。一方、優秀な中堅スタッフとなった女性職員が結婚や出産を機に退職を余儀なくされる、劇場の舞台技術職を目指す若い男性が激減している、といった傾向も目立つようになってきた。

図1に示した通り、公技連加盟21館の調査では、契約・嘱託職員、パート・アルバイト、個人業務委託といった非正規雇用等の合計が、正規雇用を大きく上回っていた。

「10年後も今の仕事を続けられると思いますか」という問いに対しては、女性と若年層において否定的な意向が強く出ている(図2・3)。続けられると「思わない」理由として一番多かったのは「体力的にきつい」。次いで「有期雇用だから」「指定管理者で先が見えないから」といった記述も多く見られた。

「体力的にきつい」という回答の背景には、集中を要する職務であるだけでなく、長時間労働、慢性的な人手不足で十分な休暇が取れないことなどが挙げられている。長時間労働や不安定な雇用といった就労環境の問題が劇場スタッフの将来の見通しに影響を及ぼすとともに、専門性を持った人の離職や男性参入者の減少といった公共劇場全体の将来に関わる課題にもつながっている。平成29年度はこの調査結果をふまえ、芸術団体の課題を抽出する『実演芸術団体の就労環境改善に関する調査研究』に取り組んでいる。

*平成26年度「劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査研究報告書」

図1 劇場従事者(雇用・契約関係別) [n=1228] (単位:%)

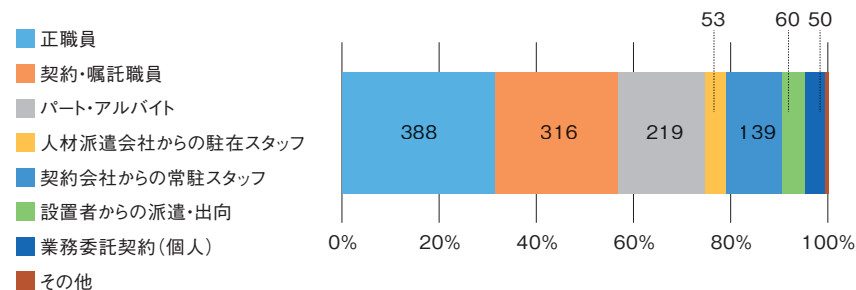


図2 10年後も今の仕事を続けられると思いますか(性別) [n=614] (単位:%)

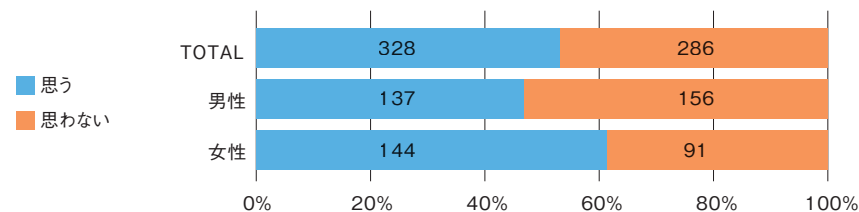
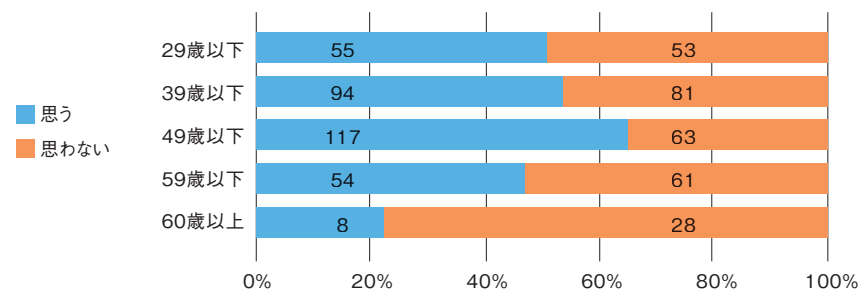


図3 10年後も今の仕事を続けられると思いますか(年齢階級別) [n=614] (単位:%)



本調査は、公共劇場舞台技術者連絡会(公技連)加盟21館の全従事者、ならびに日本舞台監督協会、(一社)日本舞台音響家協会、(公社)日本照明家協会の会員等を調査対象として実施された。

○芸団協ウェブサイトより、本調査報告書をご覧ください。http://www.geidankyo.or.jp/news/detail20170413.html

「文化芸術基本法」へと法改正



6月の国会会期末に、2001年に制定された文化芸術振興基本法の一部を改正する法律が成立し、名称も「文化芸術基本法」と改まりました(6月23日、公布・施行)。この法改正を提起したのは、超党派の国会議員で構成される文化芸術振興議員連盟です。これに先立つ6月13日には議連発足40周年と文化芸術推進フォーラム(芸団協をはじめ17の文化芸術関係団体で構成)の15周年の祝賀会が開催され、50名を超える国会議員が駆けつけ、法改正実現への機運を盛り上げました。

芸団協では、さっそく7月21日に、芸能花伝舎で基本法改正に関するセミナーを開催し、重要な改正点、今後予想されることなどについて、情報共有を図りました。今後も懇談の機会を設けつつ政策提言活動を続けます。

【花伝舎カレンダー】 芸能花伝舎を拠点に展開している事業いろいろ

新宿フィールドミュージアム

10月・11月の新宿区文化月間に先立って音楽イベント、サミットを無料開催。イベント情報を集めたガイドブック配布も。要事前申込み、詳しくはウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sfm-shinjuku.jp/>

9/26(火) 18:00～

プレオープニングイベント

会場:住友不動産新宿グランドタワー

9/30(土) 14:00～

ヴァレージサミット

会場:漱石山房記念館

ニッポンたからものプロジェクト～日本遺産×Live Art

日本の豊かな文化を再発見!各公演の詳細、申込みは順次ウェブサイトに公開します。(内容は予定) takaramono-pj.jp

10/14(土) 福井県小浜市・旭座(日本舞踊・長唄・講談・棒振り大太鼓)

10/15(日) 富山県高岡市・瑞龍寺(日本舞踊・長唄・講談・御印祭弥栄節)

11/4(土) 広島県尾道市・浄土寺(上方舞・箏曲・琵琶・吉和太鼓おどり)

11/5(日) 島根県津和野町・永明寺(上方舞・箏曲・琵琶・津和野踊り)



小浜市和多田太鼓

ご支援のお願い

より良い稽古環境と子どもたちに良質な芸能体験を提供し続けること。この二つは、芸能花伝舎の運営に携わる私たちの願いです。将来にわたって持続するためには、皆様のご支援が必要です。是非、ご寄付をお願いいたします。<http://geidankyo.or.jp/support/>

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

● 東京オペランティ事務所
〒163-1466 東京都新宿区西新宿3-20-2
東京オペランティタワー11階
Tel:03-5353-6600 Fax:03-5353-6614

● 芸能花伝舎事務所
〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30
Tel:03-5909-3060 Fax:03-5909-3061